

# なでしこ

『大宮中精神: 優しさをもって、夢や目標に向かって、挑戦する若者であれ!』

## 5/20 (月) 全校朝礼校長講話

## 『蚤の実験』の話



～運動会、定期考査は仲間とジャンプ～

皆さんは蚤のみを知っていますか? 犬や猫などペットを飼っている人は見たことがありますね。刺されるとかゆい。犬が首輪の裏をかくのは蚤のせいです。体長1～9ミリ。そのジャンプ力は何と2メートル。自分の体の100倍以上の高さを跳びます。驚異のモモ筋です。人間に例えれば100メートルをジャンプできる力ということになります。

このノミを使った実験と言われているものを紹介します。ノミを高さ30センチほどの水槽に入れてフタをします。ノミは水槽の中でピョンピョン跳びはねます。しかし何度挑戦してもフタにぶつかると、数分でフタにぶつからないように低く跳ぶようになります。このノミを水槽から出すと、フタはないにも関わらず、30センチより高く跳ぼうとしません。何だかヒトも同じ性質があるような…。私たちは何かに挑戦して何度か失敗すると「うまくいかないな…」と、自分にはできないと思い込みます。もっとできる力があるのに、自分で自分の力にフタをする。心が勝手に限界を線引きすることを、心理学では『心理的限界』と呼びます。例えば苦手教科のテストや部活等の試合で、やる前から(絶対にムリ)と心にフタをして、気持ちで負けた体験はありませんか? 私はあります。

話はここからです。実はこのノミをもう一度高く跳ばす方法があります。どうすると思いますか? その方法は、仲間のノミがいるもっと大きな高さのある空間に入れ、仲間が2メートル跳ぶ姿を見せることです。すると、すぐに(ん? 自分もできるかも)と再挑戦、再び2メートルが復活! 高く跳ぶ仲間を見ることで、自分の『心理的限界』を打ち破れるわけです。そう考えると環境の力って大きい。どんな集団で一緒に時間を過ごすかってもの凄く大事です。ネガティブな発言ばかりする人に囲まれてパワフルでいるのはしんどい。応援し合える仲間とあれば、頑張ろうと自然に思えます。どんどん前進していく人たちと一緒にいたら、前進のスピードは自然と早まります。

一学期の後半は、運動会、定期考査と続きます。自分の能力にフタをする(どうせ無理)という『心理的限界』を打ち破ることに、学級や学年の仲間と挑戦してほしい。三年生は受験を孤独に個人でジャンプするよりも、学年、学級の仲間との『団体戦』と考えた方が、良い刺激を与え合い一層高く跳べます。一・二年生も学年、学級の仲間と応援し合って、困難に挑戦する雰囲気大切に! 良い環境は自然にできるはずはなく、皆さんが意識してつくるものです。それができる大宮中だと私や先生方は信じています。😊

みんな、跳べるじゃん!



by KYEL

## 授業ぶらっと訪問②⑥

5月16日(木) ③理科 佐藤先生 3-B

大宮中ニューカマー、佐藤先生の理科室での授業です。理科室は生徒は四人が向き合わせで座ります。挨拶の後、ノート提出についての説明です。今回は仮評価で A~D そして未提出まであるそうです。生徒に見せてもらうと青い付箋に A や B-等の評価が貼られています。生徒は真剣な表情で説明を聞いて、数人からノートの使い方について質問が出ました。次に実験レポートの説明です。レポートはロイロを使った実験レポートです。一人に見せてもらうと、仮説を立てて実験データや画像を並べて、考察が見やすく書かれていました。既に何人か提出者(ネットで提出)がいるそうです。締め切りは明日の夜 23:59 までだそうです。(ク~)と苦しそうな表情の生徒がいました。何とか頑張ってください。

本時の授業はイオンについて。金属のイオンへのなりやすさ、イオン化傾向の学習をしていました。GW 前に授業観察に行ったときは、電解質の水溶液と電流についての実験や水素を発生させたりしていました。今日は座学で理論学習です。佐藤先生はタブレット端末から電子黒板にイオン化傾向の説明スライドを写して、生徒は手元のロイロノートでそれを見ながら説明を聞いています。佐藤先生は Li から Au まで 17 個の順番を覚えるのに、語呂合わせを「リ(Li) ッちなクルマ貸そうかな。まああてにするな。ひどすぎる借金(Au)」と説明していました。



懐かしい。昔化学の授業で習った遠い記憶が蘇ってきます。語呂合わせも昔と違うような…。その後、イオンの流れを使って電気を起こす電池のモデル図を使って説明します。この授業スタイルが興味深い光景でした。佐藤先生は自分のタブレット端末のロイロノートを使って、説明スライドに電子ペンで書き込みながら生徒のタブレット端末に送ります。生徒は佐藤先生の話を聴きながら、目の前のタブレット端末に描かれていく図を見ながら、自分のノートを作っています。一言で表すと本時の授業は、教室

でロイロの画面を使ったりリモート授業をおこなっている感じです。先生も生徒もそこにいるのに、お互いに目を合わせずに画面を通して授業が進んでいく、一見不思議な光景です。多分お互いに画面を通して意識を共有している感覚なのでしょう。コロナ禍の後に ICT 活用で生まれたこうした授業も成立するのかと少し驚きました。昨年度までの理科の先生の授業と全く異なるスタイルです。生徒の様子は一か月ほどで佐藤先生の授業スタイルに、既に慣れた感じで自然な雰囲気が進んでいました。二、三名の生徒に聞くと「分かりやすい授業です♪」でした。

5月20日(月) ④英語少人数 嶋田先生 2-A

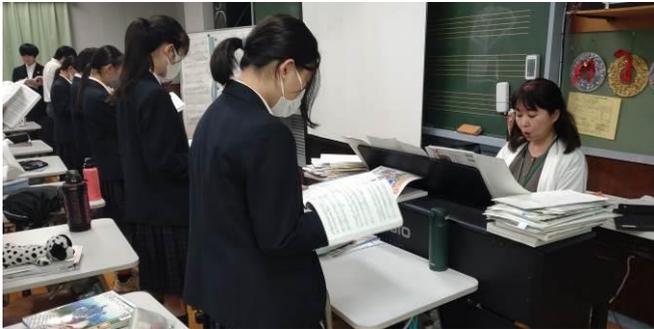


大宮中ニューカマー2人目、嶋田先生は英語担当です。今日の授業は2Aを半分にした19人の教室での少人数授業です。導入は嶋田先生の渋めの声の英語を聴きながら、生徒との英語のやりとりが軽快に進んでいきます。嶋田先生のペラペラ英語を中々聴き取れない生徒もいて、ゆっくり言い直したりしています。おそらく徐々に慣れていくのでしょう。授業は黒板に貼った電子黒板にデジタル教科書を写して、プリントを使いながら教科書の復習を進めていきます。次に新出単語、本文を音読します。生徒の多くはよく声を出して音読しています。更にシャドウイングをやりませう。リーダーのデジタル教科書の読みに合わせて、直後に生徒が音読して追いつけるリーディング学習です。少しスピードを落としているようですが、生徒は何とかついていこうと必死でした。最後にプリントで復習とまとめをおこなっていました。終了後に画面で答え合わせをしました。大事な構文の文型の使い方等を復習しました。残り10分でポートフォリオをやりませう。机を付けてペアで学習チェックをしていました。ポートフォリオとは、「スラスラ音読」「単語チェック」「暗唱」「エイゴラボ」について、単元ごとにチェックリストがあり、ペアでチェックし合って最終的に嶋田先生がチェックするプリントです。家庭学習で練習してきた、授業中にペアでチェックしあう仕組みのようです。各ペアで熱心に声を出して取り組んでいました。後で田中先生に聞いてみると、「一年生の時は教科書のUNITが多くてペア学習を行う余裕がなかったけれ

ど、二年生は UNIT が少なくなるため、積極的にペアで練習する時間を設けています」と分かりました。大宮中ではこれをポートフォリオと称しています。この学習を全学年で本格導入して、昨年より積極的に声を出して学習する姿勢が出てきているそうです。

### 5月15日(水) ②音楽 門永先生 2-B

大宮中ニューカマー、門永先生の授業です。本時は音楽室で音楽の授業です。授業前の休み時間は早めに移動ってきて、生徒はリラックスしています。音楽の授業が好きそうな様子です。女子が右側、男子が左側にかたまって座っています。タブレット端末は持参していません。チャイムと共に大きな声の挨拶で始まります。最初に今日の授業の流れを口頭で説明します。まず「足の幅をとって」と指示して、「アーアーアー」という発声練習から入ります。



素敵な声が出ています。流れるように校歌に入ります。丁寧に歌っています。ここまではウォーミングアップ。次に『旅立ちの時』という合唱曲に取り組みます。ドリアン助川さんの作詞による合唱曲です。出だし数小節は既習でユニゾンで全員で歌います。その先のパート部分の練習をします。門永先生は、まずソプラノの女子に歌わせます。しかし初見では歌えないようです。声が出ません。「いきなり無理～」という女子の悲鳴が出ます。そこで門永先生が歌唱CDを準備して聴かせます。曲は男女混声三部に分かれています。生徒は熱心に楽譜を追っています。さて、ソプラノは歌えるでしょうか。門永先生のピアノと歌声に合わせて、生徒は恐る恐る歌い出します。段々声が出てきます。門永先生「高い声はお腹に力を入れて、眉毛と眉毛の間から声を出しましょう」と美しい声を出して見せます。それを見て眉毛に指を当てている生徒もいます(残念ながら写真を撮れませんでした)。次にアルトパートです。3名ほど男子もいます。念のためアルトパートの譜面の場所の確認をしてから、門永先生に合わせて歌います。歌い終わると「ワー」とにぎやかになります。ソプラノもそうでしたが、すかさず「静かにー」という生徒の声が出ます。最後が男声です。念のためパートの譜面の確認をしています。男子も声に沿って恐る恐る声を出している感じです。全然声が出ません。

門永先生は「パート練習で段々覚えていきましょう」と慰めています。ここから三つのパートに分かれて練習をします。それぞれ楽譜にしるしを付けて、注意する点を相談しています。しばらくしてから、各パートで共有したことを発表させます。門永先生は拡大した楽譜を前に貼って、生徒の発表部分をペンで示しています。いよいよパート練習です。CDラジカセを囲んで集まります。全員が熱心に歌い出します。残り3分になって、門永先生から、全体合唱の指示が出ます。ピアノの伴奏で歌い始めました。ユニゾン部分は大丈夫です。さて、合唱部分は・・・？つられないで歌うのは中々難しいようです。が、全員楽しそうに頑張っていました。一回合わせたところで、タイムアップとなりました。門永先生、まだ3、4回の授業で、生徒の力を計りながら授業を進めている様子でした。これからどんどん曲が完成していくのでしょうか。とても楽しみです。

## 教育実習生 2 名奮闘中

全校朝礼での壇上の挨拶では、二人は緊張で震えたそうです。先生の卵が無事にふ化できる経験をたくさん積んで欲しいものです。

【小寺悠太先生】 みなさんこんにちは！日本大学文理学部史学科から参りました。小寺悠太です。担当教科は社会科で、1年A組でお世話になります。大宮中学校の皆さんは挨拶がとても盛んだなという印象を受けました。校内で見かけたら気軽に「小寺先生！」と話しかけてくださいね！プロ野球の話題は大歓迎です。(ちなみに中日ドラゴンズファンです。) 皆さんには社会科が楽しいと思ってもらえるように精一杯頑張ります。3週間よろしくお願ひします。



【森山翔太先生】 初めまして！教育実習生として5月20日から3週間皆さんと一緒に生活することになった、明星大学教育学部教育学科の森山翔太です！教科は数学で、クラスは2年A組を担当します。大学では学校教育について学んでおり、私の夢である学校の先生になるために日々勉強をしています。廊下や教室で見かけたら気軽に声をかけてくれると嬉しいです。短い間ですがよろしくお願ひします。



※学級の生徒が描いたイラスト、似ていますか？

5

9(木)

## G組校外学習 高尾山ハイク

永福町駅に集合して、電車で高尾山ハイキングに班行動で行きました。当日は朝方小雨模様でしたが、登山口から登り始めた所で雨も止み、晴れ間が見える気持ちの良い天候となりました。高尾山口からの登りは、一列になって時折おしゃべりしながら頑張って歩きました。一時間半ほどで山頂に着いた時には、生徒は「やった～。着いた～」と満足そうでした。山頂にはぎっしりたくさんの団体がいました。お弁当を美味そうに食べて、富士山を眺めたり記念撮影をしてから下山開始、一時間ほどで降りました。TAKAO599 ミュージア



ムで買い物学習をして、高尾山口駅に行ってみると、人身事故で振り替え輸送に巻き込まれてしまいました。中央線に乗り継ぎながら予定より遅れて永福町駅に帰着して解散となりました。保護者の皆様には、お迎え引き取り感謝いたします。

5

13~14

## フレンドシップ スクール(1年)

ハヶ岳方面一泊二日で実施しました。実行委員会考えたスローガンは『仲を深めて協力し合い思い出になる行事にしよう』でした。笑顔にあふれて友情を深めるという生徒の願いを感じました。

一日目、当日は雨でした。大宮小前からバス三台でハヶ岳に向かいます。昼前に小淵沢町の体育館に着いて、フロアでお弁当を食べてから、午後はチームビルディングです。ファシリテーターの進行で、6チームに分かれて様々なワークをしました。最初の1時間はアイスブレイク、後半1時間半はチームで課題に取り組みました。丸く輪になって、手を繋いでの人間知恵の輪、フラフープくぐり等で盛り上がりました。全員で協力して知恵を出し合って、課題をクリアすることで、自然に仲が深まっていく仕掛けです。教員も一緒にな



って取り組んでいる様子を見て、(自分も中学時代にこんなことをやりたかったな)と思いました。

終わってバスで宿舎に到着します。グレードの高いホテルで、生徒からも「お～！」と歓声が上がります。すぐに入浴と買い物時間で、18時から夕食でご馳走に舌鼓を打ちました。夜はナイトハイクが雨で中止となり、室内レク大会でした。生徒はノリノリで盛り上がり、親交を深めていました。二日目は6時半起床。カーテンを開けると快晴の空が…。各部屋で荷造りをして朝食。これが美味しい。その後宿舎を離れ、クラインガルテンで農業体験で田植え実習を行いました。田んぼの水温も温かく、泥の感触に生徒は興奮しながら、苗を見よう見まねで植えていました。昼には温かいほうとうをいただき、帰りの中央道は映画観賞をしながら、無事に一泊二日を終えて帰還できました。

5

16(木)

## 校外学習 (2年)



当日は朝方は雨模様でしたが、日中は晴れてきて行動しやすくなる中、生徒は方南町で集合して、班ごとに都内の施設を目指して出発して行きました。二年生は事前学習を通してSDGsについて知識を深めて、JICA地球広場を中心に、都内の複数の見学施設を訪れてきました。今後事後学習として班で新聞づくりに取り組んでいきます。秋の文化発表会でも、報告を聴けることを楽しみにしています。

